

教育的価値	具体の項目	教育課程
【そなえる】	㊫【学校・家庭・地域での日頃の備え】 危機を予測（回避）し、災害や事故に直面した際に自他の体を守り、被害を最小限に止め、非常時に生き抜く技能を身に付ける。	総合的な学習の時間

【題材】 自然災害（地震・津波含む）に対する防災と応急手当や心肺蘇生法（AED含）
 【対象】 自然災害（地震・津波含む）に対する防災 …全校 51名と教職員13名
 応急手当や心肺蘇生法（AED含）の体験実習…3年生23名と教職員 6名
 【活動の実際】 平成25年9月9日（月）11:30～12:30, 13:30～15:20

復興授業① 救急救命士からの講話 『そのとき どうする?』



* 東日本大震災の後、消防署の方、町長さん、マイヤ社長さん、たくさんの方々を招いて、大震災（地震・津波）に関するお話を聴くことができた。
 しかし、自分達が住んでいる住田町は、気仙地域であっても内陸である。そこで、今回は、地震や津波以外も含めた自然災害ということを強調してほしい。

「そのとき どうする?」

生徒に問いかけながら、講演

- ・映像（動画）で、震災が起きたらどうなるか
- ・地震その時（身を守るため）の10のポイント
- ・地震に対する10の備え
- ・その頃起こった竜巻や大雨、雷などの自然災害から身を守る方法
- ・『自助・共助・公助』の考え方
- ・身近にあるものを使った救助法



9月9日は救急の日

大船渡消防署住田分署の方々の都合がよかったので実施できました。

《生徒の感想》

大震災が起きて考えるのではなく、起きる前から考えておくことの大切さを知ることができた。自助、共助、公助をしっかりと覚えて、もし災害が起きたらこの3つを大切に、自分だけでなく他の人にも気配りができるようにしていきたいです。（3年男）

大震災が起きてからは自然災害への対策はそれなりにとれていたつもりだったが、火災・大雨など今まで大きな被害を受けたことのないものには無関心だった。しかし、授業を受けて、それらの災害は自分のすぐそばで起こり得るものと感じ、自分を守るための対策は一つではないと思った。（3年女）

私は東日本大震災の時、家族が心配でもういいやと思い、逃げる途中で足を止めて歩いてしまい、もう少しで津波にのみこまれるところで、友達が手を引っ張ってくれました。あの時私がとった行動はとても危険だったということが今日の授業で学び、“自助”の気持ちを持っているだけで、自分の大切な命を救えるんだと改めて思いました。（3年女）

復興授業② 応急手当や心肺蘇生法（AED含）の体験実習



※ 3年生のみ 2つのグループに分かれて実習

- 内容
- ・ 応急手当の基礎知識
 - ・ 救命処置
 - ・ AEDを使用した心肺蘇生法実技
 - ・ 止血法（直接圧迫止血）
 - ・ その他の応急処置
 - ・ 身近にあるもので担架



《生徒の感想》

人が倒れていたという想定で行いました。説明を聞いていて簡単だと思いましたが、いざやってみるととても難しく、少しパニックになってしまいました。これから、目の前に人が倒れていたら、真っ先に人を助けられるように準備していきたいです。（3年男）



人形を使って蘇生法を試してみました。AEDも使いました。どれも初めての体験でした。一人でやれと言われてやってみてもなかなかうまくいかなくて、自分がもしこの状況におかれたときに実際できるか心配でした。でも、勇気をもってやってみて、一人でも命を救うことができたらいいなあと思いました。（3年男）



応急手当については、止血の仕方、その後どうすればいいのかわかりました。他にも、骨折した場合の手当、やけどの時などの手当についてわかりました。これからどのように活動をしたらいいのかわかったので、生かして生活していきたいです。（3年女）



※トレーナーでつくった担架

《まとめ》

- ・ 全校生徒で、自然災害に対する防災の話を聴くことができ、事前の準備の重要性を確認できた。また、夏祭りが中止になった原因の大雨や最近聞くようになった竜巻など、今まであまり聞くことがなかった災害から身を守る方法も教えていただき、良かった。
- ・ 今年度の3年生は23名だったので1学年のみで体験実習したが、これからは、できれば毎年続けていき、体で覚えさせ、忘れないようにさせたい。